

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【宮城県多賀城市】

実施報告書
(概要版)

実施概要

宮城県多賀城市について

宮城県多賀城市は宮城県のほぼ中央に位置する都市で、仙台市の北東にあり市街地は丘陵地帯上にあります。市の名称は陸奥国府「多賀城」に因み、史跡が市内の各所に点在し「史都多賀城」と表わされるように由緒ある歴史のまちです。多賀城跡は国の特別

史跡として指定され、継承すべき

「美しい日本の歴史的風土100選」

に選ばれています。

仙台駅から多賀城駅までは普通電車で22分、快速電車で11分と鉄道等のアクセスが良く交通の便の良い市です。

人口は、約63,000人。



参照：宮城県HPの地図に加筆

訓練概要

- 訓練想定：平成26年11月9日（日）午前8時45分、宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の強い地震が発生、多賀城市では震度6強を観測した。
地震発生と同時に、市内全域にわたって多くの被害が発生し、建物等が倒壊したほか、交通障害や電気、ガス、水道、通信等の施設にも被害が出てライフラインが寸断された。
さらに午前8時50分、仙台管区气象台から太平洋沿岸部に大津波警報が発表された。

- 日 時：平成26年11月9日（日）8:45～12:00

シェイクアウト訓練 8:45～

津波避難訓練 8:50～

地区別訓練 10:30～

〔市役所での災害対策本部設置訓練、市内の主な避難所10箇所での訓練を含み、全49か所の会場で訓練を実施。〕

- 実施体制：主催／内閣府、多賀城市
協力／東豊中学校、高崎中学校及び地区住民組織、
陸上自衛隊第22普通科連隊・第38普通科連隊
・第6飛行隊、多賀城消防署、多賀城市消防団

- 参加者：約10,000人
(住民、多賀城市内の全小・中学校及び多賀城高校)

当日の訓練内容

8:45～シェイクアウト訓練

震度6強の大地震を想定し、多賀城市内全域を対象にしたシェイクアウト訓練を実施した。地震発生からの1分間、その場で机の下に身を寄せるなどの身の安全を図る行動を実施した。



▼高崎中学校



8:50～災害対策本部設置訓練

市災害対策本部を市役所会議室に設置し、訓練を実施した。その後、市ではGPSによる被害情報共有訓練を実施した。



▼市災害対策本部設置訓練



▼GPSによる情報共有訓練

8:50～津波避難訓練

住民が各所で指定された集合場所に避難する訓練(要配慮者を含む)を実施した。また、大規模避難所に指定されている小・中学校で、避難所開設訓練を実施した。



▼要配慮者避難訓練



▼避難所開設訓練

10:30～地区別訓練

各地区では自主的に訓練を実施した。メイン会場の東豊中学校では自衛隊による救出救助訓練、高崎中学校では消防による救出救助訓練を実施した。



▼自衛隊による救出救助訓練



▼消防による救出救助訓練

アンケート結果

アンケートは各地区のリーダーに依頼。内容は記述式で、21地区から回答が寄せられた。主な意見は次の通り。

- 防災行政無線(同報系)は聞こえないと回答したところが7地区あった。
- 生徒との合同訓練として、濃煙体験訓練、初期消火訓練、バケツリレー訓練、応急担架訓練、炊き出し訓練を実施すべきとの提案があった。
- 新たな訓練として、救急訓練、高所避難訓練、倒壊家屋からの救出訓練を実施すべきとの提案があった。

訓練の評価・課題等(多賀城市より)

訓練の評価は大きく以下の二つに分けられる。基本的に「全員参加型」で実施し、住民と小・中学生と一緒に訓練を実施したことで、シェイクアウト訓練を一斉に実施したことである。

1. 住民と小・中学生による全員参加型

- 今回の訓練は、学校と一緒に実施することができた地区もあり、そのような地区では生徒と住民の交流が出来て良かったという声があった。
- 一方で、生徒との合同による訓練が少なかったとの声もあった。生徒との訓練は、炊き出しのみとしたところが多いが、それでも良かったという地区と、それ以上の訓練を求めた地区もあり、地区の意向に応じて改善を図る必要がある。
- 以上のように、今後も住民と小・中学生との合同による訓練が求められている。

2. シェイクアウト訓練による一斉全員参加型

- シェイクアウト訓練は、今回、多賀城市では初めて試みた訓練であったが、全員参加型で取り組みやすい訓練であり、市としては毎年実施して行く意向である。